

2002. 5

霊性センターニュース

166号



〒611 京都府宇治市木幡御藏山39-12
宇治聖テレシア修道院(黙想)

TEL 0774-82-7016
FAX 0774-82-7457

2005
スーパースター
100号



1

100

「ピンチのときは注意深くあること」

カルメル会 中川 博道

小鳥のさえずりを静かに聴いてみる。

身近な人の気配（けはい）をゆっくり感じ取ってみる。

自分の心臓の鼓動を注意深く意識してみる。

自分が今抱いている、心の動きを少し丁寧に受け止めてみる。

自分の心の奥底からの叫びを聴いてみる。

先日、大江健三郎氏の講演会を聞きました。「文章を丁寧に書く」ことを中学生に指導された経験から、「注意深く書くことが人を変えていく」と指摘され、「ピンチの時には注意深くあること」という勧めをしておられました。

注意深くあること、それはどのようなことにおいても、その存在の根底に触れていく道筋となると思います。そして、何者かの存在の根に向かう姿勢は、同時に自分の存在の根に向かう姿勢ともなります。存在の根に向かうことは命の主であるお方に向かうことともなるはずです。

大江氏はシモーヌ・ヴェイユの「注意深くあることは祈りの心を整える」という言葉を引用されました。

時々、「立ち止まって、ひとりになって、聴いてみる・・・何が苦しいのか、どこが不安なのか、小さな身近なことにおいても、又世界の大きな出来事においても、静かに聴いてみること」このような注意深いあり方が、混迷の中で主を待ち望む心を支え、確かな歩みを整える道なのかもしれません。

「マリアは注意深くそのことをすべて心にとどめて思い巡らしつづけた。」

(ルカ 2・19)



2002年 カルメル会 東京・上野毛聖テレジア修道院(黙想)

黙想会年間スケジュール

1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ：星野正道師 (カルメル会)、西脇 良師 (神言会)

Sr.中川享子 (ケベックカリタス会)

- (1) 6月10日(月) 16時~19日(水) 朝食
 - (2) 10月18日(金) 16時~27日(日) 朝食
- 全期間参加の方優先ですが、二泊からの部分参加も可能

2. 奉獻生活者のための黙想会

- (1) 7月30日(火) 16時~ 8月 8日(木) 朝食 渡辺幹夫師
- (2) 8月20日(火) 16時~ 8月29日(木) 朝食 山田裕於師
- (3) 12月26日(木) 16時~翌年1月4日(土) 朝食 チプリアーノ師

3. 聖書深読黙想会

次の各土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで

- (1) 4月20日(土) ~21日(日) 奥村一郎師
- (2) 6月22日(土) ~23日(日) "
- (3) 9月 7日(土) ~ 8日(日) "
- (4) 11月16日(土) ~17日(日) "

2003年

- (5) 1月25日(土) ~26日(日) 星野正道師
- (6) 3月 1日(土) ~ 2日(日) 奥村一郎師

4. ウェンズディ・リトリート

スタッフ：星野正道師

「いのちの原点を見つめて」 (音楽瞑想、講話、ミサ、etc.)

- (1) 4月17日(水) 10時~16時
- (2) 5月 8日(水) "
- (3) 7月10日(水) "
- (4) 10月16日(水) "
- (5) 11月27日(水) "

5 . 奉獻生活者と信徒のための黙想会

2003年1月28日(火) 16時 ~2月6日(木) 朝食 星野正道師

6 . 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからの集合。どなたでも参加できます。

(1) 6月26日(水) 20時~28日(金) 15時 新井延和師

(2) 11月12日(火) 20時~14日(木) 15時 //

7 . 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで

(1) クリスマス 12月24日(火) ~25(水) 朝食

(2) 復活祭 2003年4月19日(土) ~20(日) 朝食

8 . ユース・リトリート

若者のための ……音楽で祈る黙想会……

11月30日(土)夕食~12月 1日(日)16時 星野正道師

9 . 男子青年黙想会

スタッフ: カルメル会士

(1) 5月17日(金)20時~19日(日)16時

(2) 11月 2日(土)20時~ 4日(月)16時

以上の申込みは、カルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。
皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355(黙想)

FAX. 03-3704-1764

上記が通じない場合は、修道院 TEL. 03-3704-2171 へお願い致します。

ただし、黙想関係の受付窓口を一つにしておりますので、電話でのお問い合わせは、なるべく午前9時~午後5時までの間にお願い致します。

尚、受付が休みになっている際は、すぐにお返事ができない場合もあります。その際は、恐れ入りますが、後日改めてお問い合わせ下さいますようお願い致します。

2002年

黙 想 会 案 内

【聖書深読黙想会】

(土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月19日(土)～20日(日)	奥村一郎神父担当
2月23日(土)～24日(日)	中川博道神父担当
4月20日(土)～21日(日)	新井延和神父担当
5月18日(土)～19日(日)	中川博道神父担当
6月22日(土)～23日(日)	新井延和神父担当
7月20日(土)～21日(日)	奥村一郎神父担当
9月21日(土)～22日(日)	新井延和神父担当
10月19日(土)～20日(日)	中川博道神父担当
11月23日(土)～24日(日)	奥村一郎神父担当
12月14日(土)～15日(日)	新井延和神父担当

【青年のための黙想】

(高校生以上～35歳まで)

・男性のため	5月11日(土)～12日(日)	カルメル会士
	11月 2日(土)～ 4日(月)	
・女性のため	6月 8日(土)～ 9日(日)	カルメル会士・カルメル宣教会
	11月17日(日)午前10時～午後5時	

【一般のための黙想】

・日曜の黙想	(午前10時から午後4時まで)	
	12月22日(日) クリスマス	未 定
・火曜の黙想	(午前10時から午後4時まで)	
	1月22日(火) 一年の始めに	中川博道神父
	2月19日(火) 四旬節準備	アロイジオ神父
	3月12日(火) キリストの受難	新井延和神父
	4月16日(火) 復活	新井延和神父
	5月14日(火) 聖母マリアとともに	長岡幸一神父
	6月18日(火) イエスの御心	新井延和神父
	7月 9日(火) カルメル山の聖母マリア	未 定
	9月 3日(火) 祈りの時	北村善朗神父
	10月 1日(火) 幼きイエスの聖テレジア	アロイジオ神父
	11月 5日(火) 殉教者の霊性	新井延和神父
	12月 3日(火) 神がやってくる	未 定
・聖テレズの黙想		伊従信子氏
	10月 5日(土)午後5時～6日(日)午後4時	
・7日間の黙想 (奉獻者の参加可)		新井延和神父
	4月28日(日)～ 5月5日(日)	
・四旬節の黙想	2月16日(土)～17日(日)	中川博道神父
・待降節の黙想	12月 7日(土)～ 8日(日)	未 定
【奉獻生活者の黙想】	(午後5時集合/午前9時解散)	
	7月26日(金)～ 8月 4日(日)	新井延和神父
	8月17日(土)～ 8月26日(月)	中川博道神父
	9月10日(火)～ 9月19日(木)	奥村一郎神父
	10月21日(月)～10月30日(水)	中川博道神父
	12月27日(金)～ 1月 5日(日)	九里 彰 神父

《申し込み》はがき 又は FAXにて、「氏名・住所・電話番号・(所属修道会名)」を書いてお申し込みください。

・但し、一般の「一日黙想」は電話での受付もいたします。

・一年中、個人・グループの黙想をすることが出来ます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

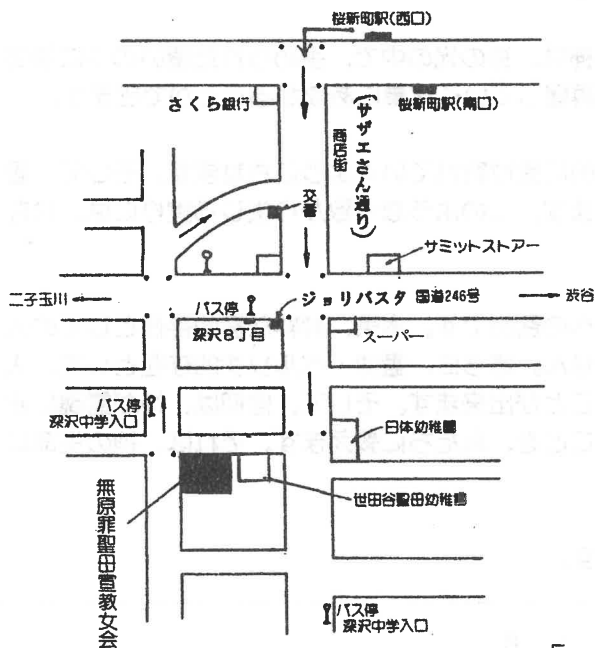
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

修道生活、司祭生活を考える若者の集い

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないかと、思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないかと、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来てみませんか。

- *日時 6月2日(日) 10時から16時まで、昼食は各自お持ちください。
- *対象 30才くらいまでの独身男女青年
- *スタッフ カルメル会司祭 星野正道
- *費用 1000円
- *内容 主日ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等
- *持って来るもの 聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等
- *連絡先 158-0093 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会
星野正道神父 TEL 03-3704-2171 申し込みの必要はありません。
- *会場 無原罪聖母宣教女会修道院

〒158-0081 東京都世田谷区深沢8の13の16
東急田園都市線桜新町駅下車



〈地下鉄〉

① 渋谷駅より
田園都市線(二子玉川方面)
桜新町駅下車 徒歩12分

〈バス〉

② 渋谷駅より 南口
18番のりば(新道経由)
二子玉川駅行 } いずれも
高津営業所行 } 深沢8丁目下車
徒歩3分

③ 東横線都立大学駅より
成城学園前駅行 深沢中学入口下車
徒歩1分

④ 目黒駅より 深沢中学入口下車
弦巻営業所行 徒歩1分

無原罪聖母宣教女会
〒158-0081
東京都世田谷区深沢8-13-16
☎ 03-3701-3295



… 主の御手のもとに生きる …

エディット・シュタインのメッセージ

—MAY—

平和と静けさを見いだすために、教会の中で過ごす時間を必要なだけお取りなさい。それは、あなたにとって有益なだけでなく、あなたの仕事のためにも、あなたが接するすべての人々のためにも、益をもたらすことでしょう。

イエス様の地上でのご生涯におけるすべてのことは、模範としての重要性を持っています。なぜなら、そのご生涯は、私たちのためにのみ生きられたものでしたから。彼は、体においても靈魂においても完全に人間になるために、一人の人間として生まれなければならなかったのです。

神は、すべての人間の靈魂の内に、ご自分の家を造らなければならなかったに違いありません。それは、神の愛の満ちあふれる豊かさが、多種多様な靈魂を通して広まっていくために、より広い場所が得られるようにするためでした。

精神は生きているもので、死ぬことはありません。精神が人間の生き方を形成するためにいったん働き始めた場所においては、ただそこに冷たい記念碑を残すだけでなく、神秘生活を導くものとなります。それは、隠れたところで守られている残り火が、ふっと息を吹きかけられるとすぐに、明るい炎となって噴き出し、輝き、燃え立つのと同じようなものです。愛を込めて見通すまなざしは、この火を燃え立たせるための息なのです。それは、発達のためのエネルギーとなり、現在の生活を支配し作り上げていくことを助けます。

神の靈に満たされ導かれる人間の精神は、神の光の中で、歪められた覆いの下に被造物の原型があることに気づき、それを再建していく作業にあずかることができます。

愛における一致は、愛するお方を靈的に受け容れていくようにさせます。そして、愛人を、愛するお方の姿へと変えていきます。このような一致から生じる実りには、共存の可能性を示すしるしがあります。

神との一致への召命は、永遠の生命への召命です。本来、純粋な靈的存在としての人間の靈魂は、死すべきものではありません。さらに、靈的・ペルソナ的存在として、人間の靈魂は、生命を超自然的に強めることが出来ます。そして、信仰は、神が靈魂に永遠の生命を与えたいと望んでおられることを、私たちに教えます。それは、神の生命に永遠にあずかることです。

すべての真理は、神から来るものです。

人が信仰に堅く立てば立つほど、その人生は、最大限の可能性にいたるまで、信仰によって浸透され、形成されていくでしょう。そして、その度合いに応じて、人は、愛の実りを示すことでしょう。

恵みなくして、信仰者になることは出来ません。他方、恵みが自由に受けとめられないなら、信仰は花開くことが出来ないのです。

信仰の対象は見えません。けれども、見えもせず、五感のどれによっても感じる事ができないにもかかわらず、それは、私たちにとっては、直接に現存するものなのです。それは私たちに触れ、私たちを抱き、私たちがそれをしっかりと保ち続けることができるようにして下さいます。

私に触れて下さる神の御手をつかむなら、そのとき、私は絶対的な支えと絶対的な安全を見いだします。今や、全能の神は、完全に恵み深い神として、私たちの前に立っておられます。この神に対する愛が、私たちを通して洪水のようにあふれ出します。そして、私たちは自分が神の愛によって浮いていることを感じます。

教会は私たちを必要としています。それは、主が私たちを必要としておられるということです。主が、私たちなくしては、やっていられないということではありません。けれども、主は、私たちをその体の肢体とし、私たちを生きた肢体として使うために、私たちに恵みを与えて下さっています。

神の霊は、意味であり力です。それは靈魂に新しい命を与え、その行いがそれ自体以上の意味を持つように靈魂を力づけ、同時にその行いに方向性を与えます。

* * * * *

この記事は、ケルン・カルメル会の Sr. マリヤ・アマータ・ナイヤーが編集し、聖女エディット・シュタインの姪に当たるスザンヌ・パッツドルフさん（米国カリフォルニア州在住）が英訳された An Edith Stein Daybook: To Live at the Hand of the Lord (Templegate Publishers, Springfield, Illinois, U.S.A.) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

エディット・シュタイン（十字架の聖テレジア・ベネディクタ）略歴

1891年10月12日にプレスラウにユダヤ人として生まれ、1922年1月1日にベルクツアーベルンのカトリック教会で洗礼を受けた。フッサールの門下生として、哲学、女子教育の分野で活躍した後、1933年10月14日にケルンの跣足カルメル会に入会、十字架のテレジア・ベネディクタの名を受ける。1938年末、ナチの迫害を逃れてオランダのエヒト・カルメル会修道院に移るが、1942年8月2日、ナチに逮捕され、同年8月9日アウシュビッツにて殉教の死を遂げる。1987年5月1日教皇ヨハネ・パウロ二世により列福、1998年10月11日、同教皇により列聖。1999年10月1日、シエナの聖カタリナ、スウェーデンの聖ビルジッタと共に、ヨーロッパの保護者と宣言される。

(西宮カルメル会 訳・編)

「対信徳・信仰」 (3)

信仰のうちに成長する

チプリアノ・ボンタッキヨ神父

わたしたちカトリック信者はみな同じ信仰を持っていますが、信仰の深さはそれぞれ違います。毎日の生活において御旨に対してどの程度“アーメン”“然り”とお応えできるかによって、その人の信仰の深さが示されます。

神はわたしたち一人ひとりの救い、また、わたしたちを通して、すべての人々の救いの業を成し遂げようと望んでおられます。毎日の生活において御旨に対して“アーメン”を応えることによってこの神の計画の実現が可能になります。

使徒パウロが言うように、人類贖いの計画も、イエスが御旨に対して常に“然り”となったお陰で実現できたのです。

「わたしたちが…あなたがたの間で、述べ伝えた神の子イエス・キリストは“然り”と同時に“否”となったような方ではありません。この方においては、“然り”だけが実現したのです。神の約束はことごとくこの方において“然り”となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して“アーメン”と唱えます」(2コリント1, 19-20)

つまり、上に述べたように、人類贖いの計画に対して主イエスは常に“アーメン”“然り”となることができたのだから、人類贖いの計画が実現することができたのです。

わたしたちの信仰も神に対していつも“然り”と応えることができるところまで成長していかなければならないものです。もちろんそこまで到達するには、祈りは当然のこと、忍耐強い努力も必要となります。かられて、できることならそれを避けて通りたいと思ってしまう。求められる犠牲は大きければ大きいほど“然り”となることがますます困難になるのです。

イエス様も、ゲッセマネで祈る姿(マルコ14, 32 ~、ルカ22, 39 ~、マタイ26, 36 ~参照)を見ると、やはり“然り”となることに対して大きな困難を体験されたことがわかります。そういうときもイエスのように、「み心にかなうことが行われますように」(マルコ13, 46)と祈れることは深い信仰の力によることです。

使徒パウロはこのイエス様の姿を常に見つめるように勧めています。

「わたしたちも…自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか。信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、ご自身の前にある喜びを捨て、恥もいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです」(ヘブライ人12,2)

その生涯の夕べに、パウロは自分の歩みを振り返ったとき、次の言葉を書き残しました。

「わたし自身は、すでにいけにえとしてささげられています。世を去るときが近づきました。わたしは戦いを立派にたたかいぬき、決められた道を走り通し、信仰を守り抜きました」(2テモテ4,6,7)

神から定められた道を走り通すことができるようになるまで、わたしたちも信仰を深めていきたいと思えます。



2002年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

日 程

ご指導

- ・ 5月31日(金)夕食 ~ 6月 3日(月)昼食 チブリアノ神父様
- ・ 8月12日(月)夕食 ~ 8月15日(木)昼食 アロイジオ神父様
- ・ 9月28日(土)夕食 ~ 10月 1日(火)昼食 星野 正道神父様
- ・ 11月21日(木)夕食 ~ 11月24日(日)昼食 チブリアノ神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問合わせは下記まで

TEL・FAX 03-3892-1378 (阿部 昌子)

断 想 (169)

神さま

わたしは いつの日からか
目が見えなくなっていました
なにもかも真っ暗になってしまいました

そのときから あなただけしか

見えなくなりました

それからは いつも

あなただけが

わたしのそばにいてくださいました

そして

果てしない大空の彼方まで

声なき声 あなたの声が

小さいわたしの心と体を

あたたかな夜の帳とばりで

包んでくれました

神さま ありがとう



ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(44)

空になることと満たされること(Fullness)

空になることと満たされることは、一見まったく正反対のように見えます。しかし、靈的生活においては、そうではありません。靈的生活においては、神に対してまったく空になることによって、私たちのもっとも深い望みが満たされるのです。

私たちは、神から命の充満を受け取ることができるために、私たちの命の杯を完全に空にしなくてはなりません。イエスは、これを十字架の上で生きたのです。完全に空になることと、完全に満たされることとが、一つとなるのです。彼がすべてを、アッパ、すなわち愛する御父に捧げた時、こう叫びました。「すべては成し遂げられた(fullfilled)*」(ヨハ 19:30) と。十字架に上げられた者は、また復活へと上げられました。空になり、へりくだった者が、高く上げられ、彼に「他のあらゆる名にまさる名が与えられました」(フィリ 2:7-9 参照)。イエスの問いかけに耳を傾け続けましょう。「あなたは、この私が飲もうとしている杯を飲むことができるのか」(マタ 20:22)。

* 原文では、“Fullness”(満たされること、充満)と“fullfilled”(完全に満たされた)の間に言葉の遊びがあります。

(0513)

杯を飲むこと

私たちは、命の杯をしっかりと握り、それを他の人々に向けて希望の印として高く掲げた後、それを飲まなければなりません。杯を飲むこととは、私たち一人一人が、自分の命として受け取ったものを、自分のあらゆる悲しみと喜びと共に、完全に自分のものとし、存在の中心に受け入れることを意味しています。

それでは、どのようにして杯を飲むのでしょうか。私たちが沈黙の内に命の真実に耳を傾けている時、私たちが成長したいと願っている道について、信頼の内に友と語り合っている時、また私たちが奉仕の行為に従事している時、私たちは杯を飲んでいのです。杯を飲むこととは、神の呼びかけに自由に勇気をもって従うことであり、私たちのものとして与えられた道に忠実に留まることにあるのです。こうして、私たちの命の杯は、救いの杯となるのです。私たちが杯の底まで飲み干し、空にした時、神はその杯を、永遠の命に至る「水」で満たしてくれるのです。

(0512)

もう一つの見方

見ないのに信じる人は、幸いである。

(ヨハネ20・29)

ヨハネ福音書の中では、イエスを「見る」ということに、非常に重要な意味がありました。神が本当に人となられたことをはっきり証しすることだったからです。福音の最初のところで、使徒ヨハネは「言(ことば)は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た」(*1)と力強く証ししています。

特にイエスが復活された後では、彼を見た人たちの声があちこちで聞かれました。マグダラのマリアは「わたしは主を見ました」(*2)と告げ、使徒たちも「わたしたちは主を見た」(*3)と言いました。また、イエスが愛しておられた弟子も「見て、信じた」(*4)と記されています。

使徒の中ではトマスだけが、復活されたイエスを見ていませんでした。復活の日、イエスが他の使徒たちに現れた時、トマスはその場にいなかったからです。使徒たちは皆、イエスを見たので信じましたが、トマスは、自分も彼らのようにイエスを見る事ができれば、信じると言いました。この言葉をイエスは文字通り受け取られ、彼も信じる事ができるようにと、復活から八日後に現われてくださいました。生きておられるイエスを目の前にして、トマスは「わたしの主、わたしの神よ」(*5)と声をあげます。この言葉は、新約聖書全体を通して、最も深く完全な信仰告白と言えるものです。イエスはトマスに向かって「私を見たから、信じたのか」と言われます。

見ないのに信じる人は、幸いである。

私たちもトマスのように、できることならイエスを見てみたいと思うでしょう。孤独を感じる時、試練に遭う時、困難の中で重荷を感じる時には、特にそうでしょう。フィリポのもとに来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」(*6)と頼んだギリシア人たちに、私たちも少し似ています。「自分もイエスの時代に生きていたら、どんなにいいだろう。そうすればイエスを見て、彼に触れ、その話を聞き、彼と話すこともできたのに…。イエスがマグダラのマリアや十二使

徒、他の弟子たちに現れてくださったように、私たちにも現れてくださったら、どんなにいいだろう…」と言いたくなります。確かにイエスと共にいた彼らは、恵まれていました。実際、マタイやルカの福音で、イエスは「あなたがたの目は（私を）見ているから幸いだ」（*7）と言われます。しかし一方でイエスは、もう一つの“幸い”をトマスに告げます。

見ないのに信じる人は、幸いである。

イエスは私たちのことを考えてくださいました。私たちは、この目でイエスを見ることができなくても、信仰の目によって彼を見ることができるからです。また私たちの条件は、イエスの時代に生きていた人々とさほど変わりません。当時も、イエスを見るだけでは十分でなく、多くの人がイエスを見ても、信じませんでした。彼らの目には一人の人が映っていたのですが、その方が神の御子であると理解するには、別の目が必要だったのです。

初代キリスト者の多くは、イエスを直接見たことがありませんでした。しかし彼らは“（見ないのに信じる）幸い”を生きていました。私たちもこれを生きるよう招かれています。ペトロの手紙一には、次のように記されています。「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです」（*8）と。

初代キリスト者たちは、イエスがトマスに話された信仰がどこから生まれるのかを、よく理解していました。信仰は、愛から生まれます。信じるとは、自分が神から愛されているのに気づくこと、恵みに対して心を開き、自らが神の愛によって満たされるのに任せること、全面的に神の愛に自らをゆだね、その愛に自分も愛でこたえることです。私たちが愛するなら、神は私たちの内に入ってこられ、ご自身を現してくださいます。そして私たちが、周りの物事を全く新しい目で見ることができるようになってくださいます。信仰によって、私たちは神の目でさまざまな出来事を見、自分や他の人々、世界全体に対する神のご計画を見出すことができるのです。

見ないのに信じる人は、幸いである。

信仰の目で物事を見る、というこの新しい見方には、一人のすばらしいお手本が

います。幼きイエスの聖テレジアです。彼女は、結核で亡くなりましたが、ある晩、^{かっけつ}喀血したことがありました。彼女はその時、「私は血を吐いた」とも言えたでしょうが、そうではなく「花婿がいらっしゃった」と言いました。テレジアは見ないのに、信じたのです。彼女は喀血という苦しみの中で、イエスが自分のもとを訪れ、愛してくださるのを信じたのです。イエスこそ、彼女の主、彼女の神でおられました。

聖テレジアのように、私たちも信仰の助けを受けて、新しい目ですべての物事を見ることができるでしょう。彼女が喀血という出来事を「神は私を愛してくださる」こととして受け止めたように、私たちも、生活の中で起こるどんなことも、「神は私を愛してくださる」あるいは「主よ、あなたが私のもとに来てくださった」「わたしの主、わたしの神よ」（*9）と、受け止めることができるでしょう。

私たちは天で、神をありのままの姿で見るとしても、しかし今からすでに、信仰によって、天の現実に向けて心を大きく開き、天の光に照らしてすべてを見ることができるようになります。

キアラ・ルービック

- *1 ヨハネ1・14
- *2 ヨハネ20・18
- *3 ヨハネ20・25
- *4 ヨハネ20・8
- *5 ヨハネ20・28
- *6 ヨハネ12・21
- *7 マタイ13・16 ルカ10・23参照
- *8 ペトロ11・8
- *9 ヨハネ20・28

フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

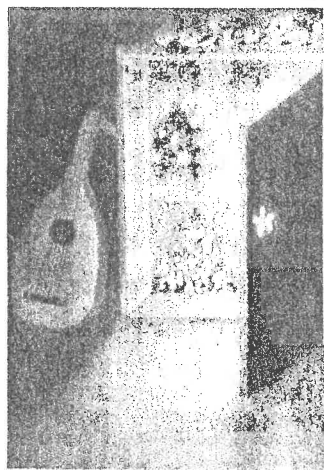
FAX. 03-5370-3055

(20)

蛭田幼一

一九九八年八月三十日

きょう久しぶりに弥撒に与ったよ。気持ちのよい弥撒だった。神父の話も身に沁むものだったしな。あたたかな感じだったな。病院に生徒を見舞った帰りに、西口へ出てロミオでお茶を飲みながら『伊東静雄詩集』を読んだ。読めるんだ、前よりいっそう。きみの十八番だが、僕も若いとき読んだせいかな資質が似ていると感じた。ホプキンスのときと同じく、何だか自分の詩を読んでいるみたいだったよ。雨が降っていたよ。電車の中で僕の胸に満ちてくるものがあった。いわば「造られた世界」に対する愛。友よ、僕は愛する。これをしもいつときの血迷いごととはいうのだろうか。



ぬいぐるみ

皆さんは、幼い頃に(今も?)、ぬいぐるみで遊んだりしたでしょうか。今日は、ぬいぐるみの話を分かち合って頂ければと思います。

電車に乗っていた時のことです。四歳ぐらいの男の子が乗って来ました。一番前の車両だったのですが、その子は、運転手さんの後ろから、ガラス越しに立って、前に何処までも何処までも続く銀色の線路と、後ろへと後ろへと夢のように流れていく初夏の緑をじっと見つめていました。小さな体に合うような小さなリュックを背負っていて、その中からは、ぬいぐるみが顔を出しています。

しばらくして、男の子は、背中リュックを前に引っ張り始めました。どうしたのかと思って見ていたら、何と彼は、リュックから顔を出しているぬいぐるみにも、自分と一緒に、あの線路と風景のおりなす面白い様子を見せてあげようとしていたのです。小さな手でぬいぐるみの顔を窓ガラスに押しつけている可愛らしい姿を見て、『この子は、本当にぬいぐるみのことを生きてると思ってるんだなあ』と、何とも言えず不思議な気持ちになりました。皆さんは、大体何歳ぐらいまで(今も?)、自分の持っているオモチャが活着ていると思っていたでしょうか。

この子の小さな後ろ姿を見守りながら、私はふっと、こんなことを思いました。それは、私達の背中リュックにも、小さなイエス様が顔を出して入っているのではないかしらということです。「永遠の限りない愛」へと走る光の線路と、そして、後ろへ消えていく、私達の人生の出来事のすべてを、私達の肩から顔をそらったのぞかせて、小さなイエス様も、きれいな瞳でじっと見つめているのではないかしらと、そう思ったのです。小さな息づかいを、背中に感じませんか？

あの男の子は、ぬいぐるみが活着ていると、「信じている」のではなく、本当に「思っている」ようでした。『私は、イエス様を生きてると信じてはいるけど、本当に思ってるかしら？イエス様に活着ていると思ってるかしら？』自分に問いかけてしまいました。あの子は、電車を降りた後も、きっと、ぬいぐるみと話したり遊んだりするのでしょうか。私も、イエス様と、活着ているお友達として、いつでも、どんなことでも、もっと一緒にしたいなあと思いました。

だって、イエス様は「本当の本当に活着ている」のですから。丸山知佳子

諸所の企画についてのご紹介

ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

*いのちの泉へ -カルメルの霊性に学んで、祈りの道を歩みたい人々のための祈りの集いです。若い方々のための祈りと信仰生活の基礎についてのグループ。お子様連れの方は、集いの間（3歳～12歳程度）のお子様をお預かりします。

2002：5月18日（土）マリアと祈る

6月15日（土）ミサと信仰生活

講話：伊従信子・片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

プログラム：第一部 午後2時から 講話、祈り、お茶&分かち合い

第二部 午後5時から ミサ、夕食、祈りの夕べ（8時頃終了）

参加費：一部のみ200円・二部までは500円

申し込み：電話(18:00-21:30)・Fax(03)3594-2254またはTel(03)3594-2247まで

詳細は電話でお尋ね下さい。電話（18時～21時30分）

スズランハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。：詳細を知りたい方は、下記へ

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

風の家

指 導：井上 洋治 師（東京教区司祭）

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

黙想会 指導 フランコ神父

*ご聖体の神秘と茶道

2002. 16:00- 4/14（日）14:00

祈りの集い 指導：シスター マリア、フランコ神父（10:00～15:00）

*年間 テーマ「キリストに出会った人々」

2002. 5/9. 6/13. 9/12. 10/10. 11/14. 12/12（木）

研修会 テーマ「宗教対話の霊性」 フランコ神父

2002. 5/31（金）16:00- 6/2（日）14:00

宗教対話活動 熊本地区宗教対話研修会グループ

2002. 4/29（金）、6/16（日）、10/6（日）

このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。（宿泊8名迄可）

ご相談ください。申し込み。TEL0968-85-3100 FAX0968-85-3186

瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師（神言会） *詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」

申し込み先……

指導：雨宮 慧師（東京教区司祭） 対象：一般信徒
2002, 2月23日（土） 5:30pm ~ 24日（日） 4:00pm 終了
6月29日（土） " ~ 30日（日） "
10月5日（"） " ~ 6日 " "
2003, 2月22日（"） " ~ 23日 " "

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会） 対象：女子青年信徒
2002, 2月10日（日） 5:30pm ~ 11日（月） 4:00pm 終了
4月29日（火） 10.00AM ~ 5.00PM
9月23日（月） " "
11月23日（土） " "
2003, 2月11日（火） " "

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） *対象、一般信徒
2002, 5月28日（火） "
* 10月29日（火）を 10月28日（月）に変更

年の黙想会

指導：星野正道師 *対象、修道女
2002, 7月23日（火） 5:30~7月31日（水）朝食後解散

指導：奥村一郎師（カルメル会） *対象 修道女
2002, 12月26日（木） 5:30PM~2003.1月4日 朝食後解散

聖書に親しむ集い

講師：シスターマグダレナ・トレス・アルピ 対象：信徒

テーマ：聖書と教皇様の新千年期の指示」交わりの霊性（コムニオの霊性）

日時：2002.1から*毎月最終木曜日 2:00Pm ~ 3:30Pm *(7.8.12月はお休み)

キリスト教講座（カトリックの教えを学びたい方）毎木曜日 10:00am. ~11:30am.

十字架の使徒職の集い

*対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期 日：第一グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.~3:30Pm.)

第二グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.~3:30Pm.)

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm~200Pm)

マリアの御心会

場 所：〒160-0012東京都新宿区南元町6-2 TEL.03-3351-0297

1. 聖書深読黙想会 : 毎月第二日曜日 対象: どなたでも
2. 詩編: 毎月第一火曜日 (第一火曜が祝祭日に当たった場合は第二火曜日)
3. ヨハネ福音書: 五月で詩編が終わり、六月よりヨハネ福音書に入ります。同じ第一火曜日です。ご自由にご参加下さい。
4. 祈りの集い : 毎月第三土曜日18:00~20:00.
5. 「来てみなさい」結婚、修道生活、独身生活を選定したい方、自分の人生について考えたい方
対象: 20代、30代の未婚女性 参加費: 500円(弁当持参)
(10:00~16:30)ミサあり。
6. 2002. 4/21(日) テーマ: わたしは、あなたを名で呼んだ(イザヤ43:1)
指導: ベルナルド・アステイゲタ師(イエズス会)
* 毎月指導者が変わります。お問い合わせ下さい
5/26(日) 自然を味わう
7/30(日) 主よ、どこにお留まりですか。(ヨハネ1:38)
* 8/2(金)~ 8/4(日) (黙想会) 長野富士見高原マリアの家
9/29(日) わたしは道、真理、命である (ヨハネ14:6)
10/27(日) これがあなたの母です (ヨハネ19:27)
11/24(日) イエスの渇きをいやす
12/15(日) すべてにおいて神を見出だす
2003. 1/26(日) わたしはもうあなたたちを僕とは呼ばない、友と呼ぶ
2/23(日) 何でもこの方の言う通りにして下さい(ヨハネ2:5)
3/23(日) 彼らをこの世から取り去ることなく悪から守って下さるように、と、私はお願いします (ヨハネ17:15)

聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax.0559-92-2120

祈りの集い(問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで!)

- 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか?

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは: 165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-3337-3291

『心のいほり、内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

*TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

*活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

*希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

2002. 5/5~5/10 神奈川茅ヶ崎 . 5/27~6/2 岩手盛岡

6/9~6/15 兵庫宝塚売布 . 6/23~6/29 京都竜安寺前

7/7~7/13 兵庫生野 . 7/20~7/26 兵庫宝塚売布

7/27~8/1 横浜戸塚 8/4~8/10 神奈川茅ヶ崎

リーゼンフーバー研究会案内

2002～2003年

キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

キリスト教理解講座 毎月第1・第3火曜日 18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。

聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分 上智大学 7号館 316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

坐禅会
●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultour ハイム 1階左の部屋 3回坐り、間に講話があります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

接心



- 4月29日(月)20時30分～5月6日(月)16時
 - 6月14日(金)20時30分～16日(日)16時
 - 8月10日(土)20時30分～17日(土)16時
 - 11月1日(金)20時30分～5日(火)16時
 - 2003年3月15日(土)8時30分～16日(日)16時
 - 5月11日(土)13時～12日(日)16時
 - 8月2日(金)17時30分～8日(木)13時
- } 秋川神冥窟
1泊2400円程度
- } 上石神井 5400円
- } 宝塚市

ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultour ハイム 1階右小聖堂
どなたでも。(8月を除く)

黙想
●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂 どなたでも。
但し、8月には21日(水; 上智大学内 Kultour ハイム 聖堂)のみ。12月24日休み。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultour ハイム 1階右小聖堂
どなたでも。(8月を除く)

祈りの集い 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月13日、5月18日、6月1日、7月13日、8月10日、9月7日、10月5日、
11月16日、12月7日、2003年1月18日、2月22日、3月8日

黙想会 6月29日(土)10時～30日(日)15時、8月23日(金)夜～29日(木)13時、
9月28日(土)10時～29日(日)15時、11月30日(土)10時～1日(日)15時、
2003年3月1日(土)10時～2日(日)15時
1泊4400円程度

アガベ会 説明会と集い 下記の日 13時30分～ 20代～40代の信者
4月14日(日)、6月23日(日): 上智大学カトリックセンター
10月12日(土)、2003年1月25日(土): S.J.ハウス第5会議室

クリスマス会 12月21日(土)16時30分～ 上智会館 5階 第6会議室 要申し込み
ミサ 12月23日(月)14時～ 上智大学内 Kultour ハイム 聖堂

問い合わせ連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2002～2003年

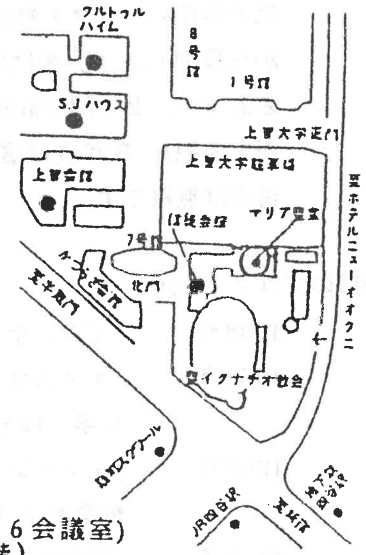
日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分
 場所 聖イグナチオ教会(四谷駅前) 信徒会館 3階 アルベホール

各 回 の テ ー マ

- 4/5 信仰の道—人生の意味を問う
- 4/12 聖書の道—人間の現状と使命を求め理性
- 4/19 聖書の人間像—人間の現状と使命を求め理性
- 4/26 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 5/10 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/17 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/24 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 5/31 新約聖書の神理解—神となる父
- 6/7 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/14 救い主の役割—人類の待望
- 6/21 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 6/28 イエスの生き方—神に遇わされて人に仕える
- 6/29-30 ●黙想会
- 7/5 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/12 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/19 最後の晩餐—自分を与えらるイエス
- 7/26 イエスの受難—その史実と意図
- 7/27 ミサ (14時、上智大学内 Kulturlraum 2階)
- 8/2 ○休み
- 8/9 イエスの死—その救済的意味
- 8/16 ○休み
- 8/23 イエスの復活—今に生きるイエス
- 8/30 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
- 9/6 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/13 祈りの本質—まがまがな祈り方—神と関わる
- 9/20 洗礼との堅信—イエスに結ばれて生きる
- 9/27 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 9/28-29 ●黙想会
- 10/4 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
- 10/11 御子としてのイエス—イエスの神との関係
- 10/18 父と子の聖霊—支えられて生きる
- 10/25 信仰の決断—支えられて生きる
- 11/1 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11/8 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 11/15 人間の弱さ—罪は何か
- 11/22 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 11/29 愛の心—キリスト教の本質
- 11/30-12/1 ●黙想会
- 12/6 隣人愛—他人の内にイエスに出会う
- 12/13 希望を持つ勇気—未来に向かって歩む
- 12/20 霊の動き—福音による生き方
- 12/21 クリスマスのミサとパーティー(上智会館5階第6会議室)
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内 Kulturlraum 2階)
- 1/10 聖書と教会—信仰の基盤になる言葉
- 1/17 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
- 1/24 神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 1/31 結婚と独身—愛の道
- 2/7 信徒・司祭・修道者—誰もが召されている
- 2/14 仕事という人間の課題—社会に寄与して働く
- 2/21 人間の苦悩—悪とは何のためか
- 2/28 死—その実現と克服
- 3/1-2 ●黙想会
- 3/7 人生の完成—神の内に生きる
- 3/14 世界の聖化—多様な形で働きかける恵み
- 3/28 聖母マリア—信じる者の原型
- 3/29 感謝のミサ (14時、上智大学内 Kulturlraum 2階)



(上智大学内 Kulturlraum 2階)



リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座

2002～2003年

日時 毎月第1・第3火曜日 18時40分～20時30分
場所 カトリック麹町聖イグナチオ教会 信徒会館3階アルペホール
電話 03-3263-4584
JR 中央線・総武線・地下鉄丸の内線・南北線 四谷駅徒歩1分

対象 キリスト教についての基礎知識を持ち、信仰をより深く考えたい・理解したい・生きたい方はどなたでも歓迎です。

内容 人生を支える信仰の力と豊かさを発見するために、キリスト教の内容を包括的かつ徹底的に知るよりも優れた道はないでしょう。本講座ではキリスト教のキー・ワードを手がかりとし、信仰の中心的な諸テーマを解明することを通して、その基盤と意味を探求し、理論的理解を深めるとともに信仰生活に指示を与え、充実した祈りへの道も開きます。現代の問題意識を常に背景にしながら、聖書を元に、古代と中世の奥深いキリスト教思想を参考にして、信仰を人間論的・神学的・哲学的な観点から展開します。専門的な知識は前提されませんが、入門講座程度の基礎知識は必要です。2年間の計画になっていますが、本年度は信仰の内容に重点を置き（裏面を参照）、次年度は信仰の実践を取り扱う予定です。途中参加・部分参加も可。講座は無料です。

講師のプロフィール

1938年 ドイツに生まれる
1958年 イエズス会入会
哲学・神学を学ぶ
1967年 ミュンヘン大学卒業
哲学博士 (Ph.D.)、同年来日
1971年 司祭叙階
1989年 神学博士
現在 上智大学文学部哲学科教授・上智大学中世思想研究所所長
元放送大学客員教授

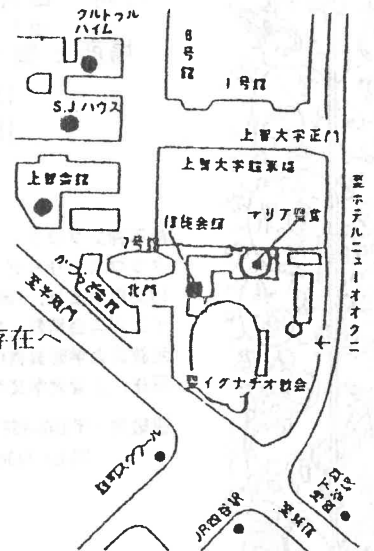


連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

日時 毎月第1・第3火曜日 18時40分～20時30分
 場所 聖イグナチオ教会 (四谷駅前) 信徒会館3階 アルペホール

今回のテーマ

- 4/2 [人間] 神の似姿 -- 有限の実存の尊敬
 4/16 理性と超越 -- 知識と信仰
 5/7 自由意思と善 -- 根本決断と負い目
 5/21 時間と永遠 -- 歴史における意義
 6/4 [神] 無限への問い -- 理性による神認識
 6/18 世界の根源 -- 神存在の確認
 6/29-30 ●黙想会
 7/2 人格の目標 -- 神経験の多様な形
 7/16 「私は在る」 -- 「彼」と「汝」としての神
 7/27 感謝のミサ (2pm 上智大学内 クルトウルハイム2階)
 7/30 [人間への神への関わり] 神の創造的自由 -- 世界に向かう神
 8/6 ○休み
 8/20 自らを現す神 -- 啓示の可能性と史実 (上智大学内 クルトウルハイム2階)
 9/3 神の語りかけ -- 神の言葉の諸次元と聖書理解
 9/17 将来への導き -- 自立した世界の中の摂理
 9/28-29 ●黙想会
 10/1 [イエス] 史的イエス -- 活動と生き方の特徴
 10/15 神の国 -- イエスの使信の新しさ
 11/5 受難による救い -- イエスの救済的役割
 11/19 死からの命 -- 復活の認識・経験・理解
 11/30-12/1 ●黙想会
 12/3 [聖霊] 神の内的現存 -- 人間における聖霊の働き
 12/17 三位一体の神 -- 救いの構造から神内の存在へ
 1/7 御子の受肉 -- 神の子と人の子
 1/21 信仰者の共同性 -- 教会の本質
 2/4 [教会] 教会の構造 -- その起源と機能
 2/18 キリスト者の一致 -- 分裂と和解
 3/1-2 ●黙想会
 3/4 しるしとしての教会 -- 社会における信仰者の課題
 3/18 母なる仲間 -- 信者と教会の原型マリア
 3/29 感謝のミサ (2pm 上智大学内 クルトウルハイム2階)



黙想へのお誘い

メディテーション

「会社帰りの黙想」

—あわただしい毎日に平安のオアシスを—

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれています。リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまなやりかたが紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書の言葉を種にし、自己を探り、静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひととき心を深めたい方どなたでも歓迎です。随時参加・遅刻可、参加無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽に訪れてみませんか。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

但し8月と12月24日休み

場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂（中聖堂）

（東京都千代田区麹町6-5 TEL.03-3263-4584

JR・地下鉄四ツ谷駅から徒歩）

指導神父プロフィール

クラウス・リーゼンフーバー (Klaus Riesenhuber) S.J.

1938年生まれ、1967年来日

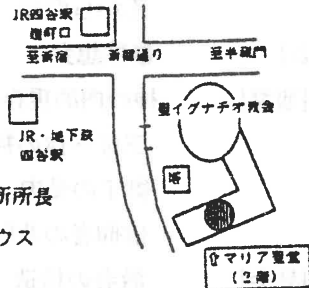
イエズス会司祭、哲学・神学博士

元放送大学客員教授(1991～1999年)

現在、上智大学文学部哲学科教授・上智大学中世思想研究所所長

連絡先：〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

TEL.03(3238)5124(直通)/5111(伝言)



聖書深読黙想会日程

	〈月 日〉	〈場 所〉	〈指導司祭〉
第1回	02年4月2日(火) ～ 3日(水)	イエズス会鎌倉修道院 (十二所)	奥村一郎神父様
第2回	02年6月24日(月) ～ 25日(火)	不二聖心会修道院 (裾野)	中川博道神父様
第3回	02年9月12日(木) ～ 13日(金)	イエズス会鎌倉修道院 (十二所)	中川博道神父様
第4回	02年12月10日(火) ～ 11日(水)	不二聖心会修道院 (裾野)	奥村一郎神父様

[イエズス会鎌倉修道院 黙想の家]

〒248-0001 鎌倉市十二所80 電話0467(25)1616

[不二聖心会 黙想の家]

〒410-1126 裾野市桃園198 電話0559(92)2120

連絡責任者 密本昌俊 電話045(621)5838
(〒231-0832 横浜市中区本牧緑ヶ丘77)

【一日黙想会のご案内】

テーマ： 今、キリスト者に求められていること

指 導： 森 一弘司教様

日 時： 5月26日(日) 10:00~16:30、受付 9:30~

場 所： コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

対 象： 男女・年齢を問わず、信徒・求道者の皆様

会 費： 2,000円(お弁当代を含む)

申込み： 5月19日(日)まで。 電話 [0424-82-2012]

*当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。南口から徒歩で20分。

タクシーで5分。下石原3丁目歩道橋下です。

*宿泊を希望される方は「友愛の家」にどうぞ。一泊朝食付き3,000円



聖書を生きる

講師 カルメル会司祭 奥村 一郎

聖書という言葉は、元来「書物」に由来します。「花といえば桜」という諺のように、「本といえ
ば聖書」ということです。単なる読み物ではなく心の糧、命の食べものとなる神のことばです。
そこでは、聖書を知るだけでなく、聖書を生きることが大切。そのために、聖書全体の中核で
ある四福音書に基づき、聖書を生きるよろこびを共に分かちあっていく、この一年であります
ように。

(講師・記)

回	2002年	テーマ	
1	4月 9日	エンマヌエル	マタイ 1 節 18~24
2	23日	マリアのお告げ	ルカ 1 節 26~38
3	5月 14日	洗者ヨハネ	マルコ 1 節 1~8
4	28日	自己の福音的理解	マタイ 16 節 24~26
5	6月 11日	金持ちの青年	ルカ 18 節 18~27
6	25日	わたしは誰か?	マタイ 16 節 13~20
7	7月 9日	他人を救って...	マルコ 15 節 23~41
8	8月 27日	愛と慈悲	ヨハネ 13 節 34~35
9	9月 10日	復活秘義	マルコ 16 節 9~20
10	10月 8日	終末論の真意	黙示録 21 節 1~4

※各回のテーマは変更になることもございます。

〈テキスト〉 聖書 新共同訳
各自ご用意下さい。

〈講師紹介〉 奥村 一郎(おくむら・いちろう)

1923年生まれ。東京大学法学部政治学科及び同大学文学部宗教学科卒業。
ローマのカルメル会国際神学院卒業後、フランスのアンジェ・カトリック神学大
学で、神学博士課程修了。元カルメル会日本管区長。ローマ法王庁諸宗教
対話評議会顧問。

著書に『祈り』『断層』『神とあそぶ』(以上、女子パウロ会)他がある。

日 時 火曜日 10.30~12:00 全10回

受講料(税別) 全 26,000 円(初めて受講される方は入会金 5,000 円が必要です)

場 所 新宿住友ビル 48 階 朝日カルチャーセンター(申し込みは4階受付)

※講師の病気、受講者が一定人員に達しない場合などに、講座を延期または中止することがあります。



朝日新聞の文化活動 朝日カルチャーセンター

〒163-0204 新宿住友ビル内 私書箱 22 号

東京都新宿区西新宿 2-6-1 TEL. 03-3344-1945 (直)

インターネット情報接続先 <http://www.asahi.com/acc/acc.html>

新刊紹介

上智大学中世思想研究所編訳/富原眞弓監修『中世思想原典集成15 女性の神秘家』（平凡社、二〇〇二年、一〇三八頁、定価一〇〇〇〇円）

シリーズ第一九回配本。本書は十二世紀から十六世紀初頭までのヨーロッパ各地（スウェーデン、イギリス、ベルギー、ドイツ、フランス、イタリア）で活動した女性の神秘思想家一七人の著作と、イギリスの隠遁修道女のために書かれた宗教書の計一八点を収めたものである。ピンゲンのヒルデガルト『スキヴィアス（道を知れ）』ほか、収録著作のほとんどはここに初めて原典から翻訳されたものである。

大学のスコラ神学を背景とした当時の男性聖職者による思弁的な神秘思想と異なり、中世の女性神秘家の思想は、自らが直接体験した神の啓示・幻視を出発点とした。そのため彼女たちは、神への熱烈な信仰心と隣人への愛という共通点のほかは、独身の修道者から既婚者の主婦まで、その身分はさまざまであり、著作も、神学的論考から、書簡、詩、自伝まで、多様な文学的形式を用いている。

ハデウェイヒ、マクデブルクのメヒティルトなど、ベルギー、ドイツ、フランスで活動した、ベギンと呼ばれる在俗の敬虔な女性信徒の著作では、当時の宮廷風恋愛文学の用語を大胆に駆使してキリストとの霊的婚姻が語られる。中世末期イギリスで活動したノリッジのジュリアンとマージェリー・ケンブは、当時の学問語のラテン語でなく、俗語の中英語を用いて独自の神学思想を展開したことから、「俗語神学」として近年注目を集めている。

もともと、後世の評価とは裏腹に、当時の彼女たちは、一部の例外を除けばまずは教会内で女性として周縁的な存在にすぎず、特異な幻視体験はときに異端視される原因ともなった。魂の徹底した無化を通じての神との合一を説き、今日「女性のエックハルト」とまで言われるマルグリット・ポレートは、ジャンヌ・ダルクが火刑に遭った一世紀以上前に、異端者として同じ処刑を受けている。キリストの受難の黙想は彼女たちの著作の中心的なテーマであったが、「受難の神秘主義」は文字通りに彼女たちの生をも表す言葉だったのである。

上智大学中世思想研究所長

K・リーゼンフーバー

『最後の日記～信仰と友情の旅～』

ヘンリ・J・M・ナウエン/著

太原千佳子/訳 女子パウロ会/発行

星野正道神父

著者のヘンリ・ナウエンは1932年、オランダに生まれ、1996年9月21日、心臓発作で没したカトリックの司祭である。ハーバード大学神学部教授の務めの後、ジャン・バニエが始めた知的に障害を持つ人々と家族としてくらすグループ、ラルシュ（箱舟）の指導司祭として、カナダ、トロントの近郊、デイブレイクで生活した。

彼の著作は膨大で、その中のほんのわずかなものが邦訳されている。しかし、それでもここ数年の間に集中的に翻訳されて、キリスト教関係出版の中では一つのブームの様相さえ呈している。『傷ついた癒し人』、『コンパッション』…、未邦訳『放蕩息子の帰還』。なぜこれほどに北米、ヨーロッパ、そして日本で、いやそれだけでなく世界中でナウエンの著作が愛読されるのだろうか？

それはおそらく、次の三つの体験をナウエンとわたしたちが共有しているからだろう。

まず、わたしたちとの同時代性。進歩、発展という、わたしたちにとってなじみ深い価値観が終焉を迎えたのに、頼りになる指針が示されないまま、独りぼっちで世界の中に放り出されているという空しさの共有。

二つ目は、高度に発展した文明社会の中で、日々、とり残されまいとして情報をかき集め、また、それを発信し続けながら、生き急ぎつつ、生き残ろうとしているつらさの共有。

三つ目は、そうまで努力しながら、社会の中にも、プライベートな世界の中にも帰り着く場を見出せない不安の共有。

彼は自問する。それは、わたしたちの気持ちを代弁しているようだ。「わたしは、自分の好きなことがしたいのに、それができないので、こんなに疲れてしまうのだろうか、それとも人々の重荷を軽くするために自分に与えられた何か、つまり自分の能力以上に大きな仕事をしているから、疲れるのだろうか？」（本書 P.9）

本書は、そんな彼に一年間のサバティカル・イヤー（特別研修休暇）が与えられたことによって実現した。彼は、おそらくわたしたちには与えられないであろう、このゆったりとした時の流れの中で本書を書

いた。それも、きわめてプライベートな日記として、それを著わした。その中で自分の本音を語ることによって、わたしたちの内側でうごめいている本音をも明らかにしてくれる。

オペラ『カルメン』を見た後、彼は記す。「わたしたちのなかに潜む『奔放な情熱』を生命力や創造力を犠牲にしないで、なだめる方法はないのだろうか？秩序正しい生活をおくるために、恋愛の情熱を押し殺す必要はない。また、生命の本能的な力を生かしていくために、秩序や規律を犠牲にする必然もない。カルメンのような女が、わたしの生活に押しかけ、わたしの足をすくうようなことがあれば、わたしだってどうなるかわからない。」（1995年10月18日）

わたしたちはこの日記を読むことによって、わたしたち自身の内面を体験することになる。そして、自分の中に、ただ休息がほしいだけではなく、どんな願望があるのかを知り、見知らぬ自分をかいま見ながら、それを彼と共有しつつ、癒されてゆくのだろう。

ナウウエンの、この最後の著書の最後の言葉は、特別に印象的だ。それは、自分でもわからずに、闇の中に手をのぼして、もがいているわたしたちに、自分がいったい何を求めているのかを明快に示してくれた。それは、ナウウエンがかつて著わした『放蕩息子の帰還』の物語そのままでもある。彼はこの日記を書き終えて、故国オランダの地で神のもとへの旅を終結した。この最後の言葉は、求めてやまなかった父である神の両手の中で、すべての束縛から解き放たれ、身を投げ出し、抱きしめられた彼が発した最初の言葉であり、傷ついた彼を迎える父なる神のいたわりの言葉ともなった。

「ほんとうに、サバティカル・イヤーは終わったのだ。帰ってきて、よかった。」



銀色に輝く月の面こそ

神のひとみのごとき心地す



マリア安達留子遺稿集

萩の歌より

上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線 : 「上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線 : 「六地藏駅」下車徒歩15分

京阪バス : 六地藏の町並バス停より御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共 : 0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って明礮橋を右折

男子蹴足カルメル修道会

お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5

☎045-941-3566

あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道

... (faint text) ...

... (faint text) ...

... (faint text) ...

... (faint text) ...

... (faint text) ...